

十二月十九日

横須賀模型写真撮り直し。珍らしく朝おそく起きたら、今日も天気が良いので折角作った模型だから撮り直してみようと考えた。ライカ写真は全滅だったから口惜しいという事もある。今日は大学で明日の横須賀市インタビューのスライド準備。

ついでにセロリ（椅子）の写真もとった。面白くなってつい時間をかけてしまった。今日中に丹羽君に渡して正式発売のNewsを流さなくてはならない。夕方交通事故でなくなった伊藤先生の御子息の通夜。三鷹市の禅林寺。一橋大学の学生だったようだ。軟式野球サークルにいて大いに学生生活を楽しんでいただろう。伊藤先生と焼香の際に顔が会ったが、声もかけられず、こんな時にはかける言葉もない。故人の写真の真下に若い白い花がまとめてあって、今度だけは特別な花を贈りたくて、あれが私の精一杯の伊藤先生への気持だ。早々に立ち去る。今日はもう何もしないで寝てしまおう。友人の不幸は気を滅入らせる。親より先に死んではいけない。考えてみれば私なんか実に平々凡々な人生だな。凡夫の典型だ。不幸は人を育てると言うから、それで私は育たなかったのだ。生老病死からは何人も逃れることが出来ないが、それを実感し宿命とも言うべき死を考えるのは他人の不幸に会った時だけと言うのも情けない。しかし、結婚式葬式は誰が考えても今の時代の儀式とは思えぬモノが多い。毛綱の式の時も藤塚が葬式会社を怒っていたが、今日も毛綱の葬式に居た女が会

場を仕切っていた様な気がする。クールなポーズを決め込んで感情のない不感症みたいな女。こういうビジネスのあり方は良くない。他人の不幸を喰いモノにしているのがあからさまなのだ。誰かこの世界に革命をおこさないか。仏教、僧侶がもっとキチンとしなくてはいけないのに、不幸に直面している人間に何の言葉もかけてやれないのか坊主は。又も死せる仏教の現場に会ってしまった。

十二月二〇日

午後横須賀市ミュージアム、プレゼンテーション&インタビュー。シンプルにプレゼンテーションして、自分なりに率直にコンペというかプレゼンテーション&インタビューは面白かった。何処までやっていいのか全て建築家自身の判断にゆだねられているのが良い。あんまりやり過ぎてても品が無いし、やらな過ぎてても意欲が感じられぬという間の世界だろうと思う。

十二月二一日

朝六時半起床。路上観察学会の面々からのユリの花がまだ咲き誇っている。白い胡蝶ランも一片の花びらも落ちず、まるで造花のようだ。植物どもは過ごしやすいんだろうなこの家は。ソーラーバッテリーが良く稼働する事がわかったので床暖房のシステムを考え始めたい。今日は長女の徳子がアメリカから帰国する。正月を日本で過ごす為だが、マアあんまりギリギリしないでチョットと間抜けな生活をして欲しい。しかし彼女が帰国すると正月我家は女四人になるわけで、当方としては辛い。女は口がたつからな。日常戦ではとても敵わないのだ。あんまり余計な事言は

ないで口応えしないようにしてなんとか正月をしのごう。

十時半より来客。

NHK教育TV「美と出会う・石山修武」明日土曜日二十二日
夜十時半より放映とのこと。来週火曜日（二十五日）NHK総合
十一時より再放送。時間があつたら見て下さい。今日は雪空だな。
午後幾組かの来客、修論相談。